

答申：地域人材の活用につながる府中市生涯学習センターに求められる機能について

はじめに

文部科学省中央教育審議会は平成30年12月の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」において、多様化し複雑化する課題と社会の変化へ対応するため、社会教育のあり方として「人づくり」～「つながりづくり」～「地域づくり」という「学びと活動の好循環」を生むことが重要と指摘しています。

府中市では、令和3年3月の府中市生涯学習審議会第9期答申「新たな学び返しの展開を目指して」において、「地域での課題解決型の新しい学びの場として、府中市民のコミュニティスキルをはぐくみ育てる学習活動」や、「学び返しの新しい展開（学びを通じて得た知識や技術、そして学びの場で育まれる人と人の繋がりを活かして、地域の困りごとや課題の解決に向けて協働していく）」が提案されています。

今期（第10期）審議会では、これらを踏まえ、諮問事項「『学び返し』を進めるための地域人材の活用」について、府中市の生涯学習・社会教育の拠点である府中市生涯学習センターのあるべき姿や求められる機能に焦点をあてて議論しました。またあわせて府中市生涯学習センターで育成されてきた「府中市生涯学習サポーター」の役割やその活用についても話し合いました。

答申：地域人材の活用につながる府中市生涯学習センターに求められる機能について

審議を踏まえ、今後の府中市生涯学習センターに求められる機能として、次の3点を提言します。

1. 地域の課題解決につながる人材活用に向けて

府中市生涯学習センターにおいて、個人の知的欲求の充足や自己実現・成長につながる講座に加えて、地域の課題を掘り起こし、その解決に向け協働して動いていける人材を育成する講座の開設が望まれます。具体的には「コミュニティスキル¹」や「ソーシャルワーク²」と呼ばれる考え方や技術を身につける講座や、府中市の地域が抱える多様な課題に関する講座等が考えられます。また、府中市全体の課題だけでなく、各地域には、特有の課題が存在し、実際の課題解決にはより身近な地域を拠点とする必要性もあります。そのため、府中市生涯学習センターで講座を実施するとともに、各地域の文化センター、自治会、町内会及び各種住民グループとの連携も視野に入れる必要があります。

2. 地域の「学びのコミュニティ」形成につながる人材活用に向けて

生涯学習・社会教育には、地域で人々が「学びあう」ことを通じて、人と人がつながり、「学びのコミュニティ」を形成する機能があります。個人化が進み、地域の中で多くの人が孤立しがちな現代社会では、こうした「学びのコミュニティ」が核となって、地域の諸課題へ対処していくことが望まれています。そのためには、「学びたい人」同士が出会い、「学びたい人」と「学びの機会を提供できる人」とが結びつくことが必要です。府中市生涯学習センターには、このような多様な「学びあい」を生み出すための「相談・支援」機能が求められています。具体的には、既存の多様な学びのサークルやサポーターのデータベースの活用促進、学びのニーズ調査とそれに対応した「学び返しができる人材」の掘り起こし、そして学びたい市民が気軽に相談できる場作りを行い、「学びのコミュニティの形成」につなげていくことを期待します。

¹ コミュニティスキルとは地域力を醸成するのに必要な双方向のコミュニケーションや合意形成技能、多様な関係者との協働や世代を超えて繋がるスキル（ICTの利活用含む）等をいいます。

² 個人やコミュニティの抱える様々な課題の解決に向けて、人権や社会正義、多様性の尊重等の原則に基づいて、社会にはたらきかける実践を意味しています。

3. 学びと活動の場である府中市生涯学習センターのさらなる充実に向けて

指定管理者制度を導入している府中市生涯学習センターでは、民間事業者のノウハウを取り入れた運営が行われています。その特性を生かした様々な企画は、子供向けの講座などを中心に府中市生涯学習センターの充実に貢献しています。しかしその反面、新たな講座の提案は、必ずしも十分ではありません。府中市生涯学習センターには陶芸室やパソコン学習室など、多様な学習ニーズに応えることができる設備を備えています。それらの設備を活かすため、講座の企画段階から市民参画型で運営を行うことや、市民のニーズ調査を実施することを期待します。また、施設の使用に関してのルールを遵守しようとする一方、利用に関しての厳しさを指摘する声や、館内の照明が少し暗く、入館をためらうといった声もあります。市民に広く学習の機会を提供するとともに学び返しを推進し、学びのコミュニティの形成等につなげるために、施設全体の雰囲気醸成を行う必要があります。これらの事を踏まえ、今後も市民のための府中市生涯学習センターであることを市と指定管理者は共に認識し、一層の充実が図られていくことを期待します。

府中市生涯学習サポーターに関して、「学び返しを進める地域人材の活用」の視点から、次の2点を提言します。これらも、府中市生涯学習センターに求められる役割である考えます。

1. 学びのニーズに対応したサポーターとなる人材を育成するために

府中市生涯学習サポーター制度とは、学習機会の充実と、知識の活用を図るため、専門的知識・技術を持つ方が市に登録する制度で、現在約60名の方が登録しています。しかし、登録者数の減少や多様化する市民の学習ニーズに対応できていないなどの課題があります。そのため、今後は「サポーター」になりたい市民が自主的に登録するのを待つのではなく、市民の「学びのニーズ」に対応した「学び返し」ができるサポーターを掘り起こしていく、という「攻めの姿勢」が求められます。また、現在の府中市生涯学習サポーター制度は、利用にあたって、依頼したサポーターに依頼者が期待している能力・知識を有しているか分からないことから依頼しづらいという声もあります。あることについて「深く知っている」「豊かな経験がある」と、**「それを他の人と共有する、教える」こ**

答申：地域人材の活用につながる府中市生涯学習センターに求められる機能について

とは違います。このことから、現在行われているサポーター養成講座をさらに充実させ、サポーターとなった人への「学び返しの技法」に関する講座等を行い、育成に努める必要があります。

2. 府中市生涯学習サポーター制度をより多くの市民が使えるようにするために

府中市が推進する「学び返し」の鍵となる要素である生涯学習サポーター制度を、より多くの市民に知ってもらう必要があります。そして、サークルや団体単位でしか利用できないこの制度を、「学びたいことがある」個人が活用できるようにするために、「学びたい市民同士」をつないで、さらにそれを「府中市生涯学習サポーター」につなげていく、という機能を府中市生涯学習センターが持つことも必要となります。また、府中市生涯学習センターの機能実現の施策の中では、より長く生涯学習に関わるべき若い世代のためにも、DX³などコミュニティの形成を活性化するデジタルコミュニケーションを積極的に取り入れることが求められます。

³ DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を浸透させ、人々の生活をより良いものへ変化させていくことを意味します。

答申：地域人材の活用につながる府中市生涯学習センターに求められる機能について

おわりに

府中市生涯学習審議会は、これまでも、豊かで実りある市民生活を実現するために、生涯にわたり行う学びの在り方について審議してきました。今回の答申では、府中市生涯学習センターの役割を含め「学び返しを進めるための地域人材の活用について」審議し提言をしました。「学び返し」を推進していくためには、地域人材の活用は必要不可欠な要素であり、また、その拠点となる場の提供も同様に重要であると考えます。今後も、府中市生涯学習センターを拠点として、多様化する市民ニーズに応えられるよう、今回の提言の実現に向けて市民と協働して、推進していくことを期待します。